



横浜みなとみらいホール ミュージック・イン・ザ・ダーク® 事業報告書

2026年1月

横浜みなとみらいホール(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

はじめに

「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」※とは、視覚障がいのある演奏家と視覚障がいのない演奏家によるアンサンブルが照明をすべて消した暗闇の空間で演奏し、会場にいる全員が視覚以外の感覚を研ぎ澄ませて音楽を楽しむコンサートです。東京藝術大学で、当方がリーダーを務める「インクルーシブアーツ研究」の取り組みの一つとして2015年に始まり、横浜みなとみらいホールを中心に約1年に1回のペースで開催され、2026年2月までに全国各地で10回の公演を重ねています。

「暗闇で演奏会をする」という発想は、視覚障がいのある世界的ヴァイオリニスト川畠成道氏の「僕の練習は、曲を暗譜した時から始まる。」という言葉に衝撃を受けたことから生まれました。通常、クラシック音楽の演奏家たちはまず楽譜を見ながら練習を重ね、そのゴールとして暗譜(楽譜を見ない)で演奏する、という順番で曲を仕上げているのですが、視覚障がいのある演奏家たちは、ある曲を演奏するためには真っ先に暗譜しなければならない、つまり「暗譜→練習→本番」という逆の順番で演奏を完成させていくことを知ったのです。

視覚と音楽はどのように影響し合っているのだろう。見ることと聴くことはどのように違うのだろう。「見えない」「見えない」ことから音楽の本質に近づいてみたい。そんな問いかけからこのコンサートは始まりました。

「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」では会場に完全な暗闇が作り出され、障がいの有無にかかわらず奏者全員が視覚情報のない中で、楽譜を暗譜し、アイコンタクトも取らず、息遣いと気合だけで一糸乱れぬアンサンブルを作り出します。暗闇の中では、逆に視覚障がいのない演奏家たちに「見えない」というハンディキャップが課せられ、視覚障がいのある演奏家がアンサンブルをリードしていくことも間々あります。

漆黒の闇から響いてくる音に耳を傾けると、全身の感覚がどんどん研ぎ澄まされていくのが感じられ、次第に自分の肉体が消滅するような錯覚にとらわれます。見えないことによって聞こえる音、見えることによって聞こえなくなる音。人間の認識は、いかに視覚情報に支配されていることでしょう。

「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」は、視覚障がいをテーマとした一つの試みではありますが、公演を通じて、障がいや共生社会について考えるきっかけになれば幸いです。

横浜みなとみらいホール
館長 新井鷗子

※「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」の名称は、東京藝術大学の商標登録です。

実施概要（横浜みなとみらいホール主催公演を中心に）

日時	会場	出演者
2018年3月17日(土) 15:00 開演(14:15 開場)	小ホール	川島成道(ヴァイオリン)、古川展生(チェロ) 特別編成合奏団(コンサートマスター:三浦章宏) ヴァイオリン:荒木唯子、磯 絵里子、宇根京子 小寺麻由、松尾牧子、松田麻実 矢部咲紀子、横島礼理、横溝耕一 ヴィオラ:安藤裕子、田辺藤祐、千原正裕 チェロ:渡邊辰紀、新井幸子、成田七海 コントラバス:高橋洋太 チェンバロ:諸田由里子
2019年11月2日(土) 15:00 開演(14:15 開場)	小ホール	徳永二男(ヴァイオリン)、川島成道(ヴァイオリン) 特別編成合奏団(コンサートマスター:三浦章宏) ヴァイオリン:荒木唯子、磯 絵里子、宇根京子 高井敏弘、小寺麻由、徳永希和子 松尾牧子、松田麻実、横島礼理 ヴィオラ:須田祥子、田辺藤祐、千原正裕 チェロ:新井幸子、山内俊輔、山本裕康 コントラバス:佐野央子 チェンバロ:諸田由里子
2021年12月5日(日) 14:00 開演(13:15 開場) 18:00 開演(17:30 開場)	横浜能楽堂	藤原道山(尺八)、風雅竹韻(尺八アンサンブル) 澤村祐司(箏) *特別ゲスト 筑波大学附属視覚特別支援学校高等部音楽科2年 小汐唯菜(声楽)、町田天音(声楽)
2022年11月1日(火) 15:00 開演(14:15 開場)	小ホール	和波孝ネ喜(ヴァイオリン)、川島成道(ヴァイオリン) 成田達輝(ヴァイオリン) 渡辺玲子(ヴァイオリン)※小林美樹の体調不良により変更 特別編成合奏団(コンサートマスター:三浦章宏) ヴァイオリン:荒木唯子、磯 絵里子、白井麻実 宇根京子、小寺麻由、高井敏弘 徳永希和子、松尾牧子、横島礼理 ヴィオラ:須田祥子、田辺藤祐、三浦克之 チェロ:新井幸子、高橋純子、山内俊輔 コントラバス:高橋洋太 チェンバロ:小森谷裕子
2024年3月20日(水・祝) 15:00 開演(14:15 開場)	小ホール	川島成道(ヴァイオリン)、岡本誠司(ヴァイオリン) 南 紫音(ヴァイオリン) 特別編成合奏団(コンサートマスター:三浦章宏) ヴァイオリン:荒木唯子、磯 絵里子、白井麻実 北川千紗、小寺麻由、高井敏弘 徳永希和子、松尾牧子、横島礼理 ヴィオラ:田辺藤祐、三浦克之、柳瀬省太 チェロ:新井幸子、大宮理人、富岡廉太郎 コントラバス:本間達朗

		チェンバロ: 諸田由里子
2026年2月7日(土) 15:00 開演(14:15 開場) *開催予定	小ホール	藤原道山(尺八)、風雅竹韻(尺八アンサンブル) 澤村祐司(箏) 神田佳子(パーカッション) 小汐唯菜(声楽)

1、制作

実施体制 の決定	<p>◎事業開発者 横浜みなとみらいホール館長 新井鷗子(企画・構成含む) 東京藝術大学 COI 拠点</p> <p>◎実施パートナー 株式会社1002 筑波大学附属視覚特別支援学校 東京藝術大学 演奏藝術センター開設科目「障がいとアーツ研究」 浅香ちぐさ(障がい当事者アドバイザー) 横浜みなとみらい 21 ロータリークラブ 横浜市立盲特別支援学校 神奈川ライトセンター 株式会社ヤマハミュージックジャパン 等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・関係者による協議 ・役割の確定 ・名義の確定 ・予算・実施規模の確定 ・支援団体の協力の有無 ・学生参加の方法の検討
実施日決定	<ul style="list-style-type: none"> ・ホールの利用可能日と、関係各者の予定を調整。 ・大学の授業(東京藝術大学演奏藝術センター開講授業「障がいとアーツ研究」等)と連携する場合は、授業枠との調整等。
実施内容 の決定	<ul style="list-style-type: none"> ・東京藝術大学のARTs love ALLウェブサイト「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」実施マニュアルを元に、各回のプログラムやニーズに合わせ内容を再構成。
公演チケット	<ul style="list-style-type: none"> ・通常ホールで実施している「障がい者手帳等をお持ちの方」割引の設定のほかに、ペア券(障がい者手帳等をお持ちの方と介助者1名の並び席)を設定 ・ペア券席は、出入りの比較的容易な席で設定。 ・盲導犬同伴のお客様が通常の公演に比較的多いため、要コメント席(チケットセンターにて口頭でご説明のうえ販売する席)を多く設定。
公演	<p>出演者: 特別編成合奏団(視覚に障がいがある人となない人の混合アンサンブル)は、視覚障がいのある演奏者は開発者の新井が手配、視覚障がいのない演奏者は株式会社1002のネットワークにより手配。ソリストは都度検討。</p> <p>演奏曲: 出演者が暗譜で演奏できる長さや曲を考慮し、暗闇の時間や演出を設定。 編曲が含まれる場合は、暗譜や暗闇での演奏のための工夫あり。 点字楽譜や音源の手配。</p> <p>練習・リハーサル: 特別編成合奏団の視覚障がいのある演奏者は、本番会場でのリハーサルの前に、個別に数回の事前練習を必要とする。 本番・リハーサル会場への移動のアテンドが必要。</p>

サポート体制	<ul style="list-style-type: none"> ・リハーサル時に専門のアドバイザーによるアドバイスを受ける ・当日配置スタッフ(レセプションист、ボランティア、職員等)に、視覚に障がいのある方へ接する基本的な対応について講習を行う(講師、資料については神奈川ライトセンター等に相談) ・出演者が駅からホールまで安全に到着できるよう、学生やボランティアなどのサポートスタッフを配置。 ・会場内でお客様が安全に過ごせるよう、通常より多くスタッフを配置。声かけを徹底 ・化粧室対応のため、レセプションистは男女配置する ・会場内の段差等に配慮し、事前に安全な動線を確認 ・通常小ホールではエスカレーターを使用するが、本公演では使用せず。エレベーター動線のみでご案内を行う。
フィードバック	<ul style="list-style-type: none"> ・参加者アンケートの実施

2、鑑賞サポート

事前告知	<p>(1)チラシ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「聞くチラシ」 ユニボイスによる音声コード付きチラシの作成。音声コードは、基本情報の抜粋原稿(文章は敬体)として作成。必要情報の精査や情報の順番に配慮。音声コードの近くに規定サイズの切り欠け加工をほどこす。 ・「見るチラシ」 分かりやすい文字、読みやすい色に配慮。UD フォントの使用やはっきりとした色の背景、白抜き文字など。色盲の方への配慮も。 ・読みやすい配置に配慮。文字と写真やイラストがかぶらないようにデザインし、情報のブロックを分ける。 ・「読むチラシ」 点字チラシの作成。基本情報の抜粋版(文章は常体)として作成。→社会福祉法人日本点字図書館へ依頼。 <p>(2)ウェブサイト</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシに記載されている情報はテキストとして読み上げ対応できるよう、ウェブサイトにも記載。 ・ご家族、介助者のためのご来場ガイドをウェブサイトに公開。
当日のサポートツール	<ul style="list-style-type: none"> ・点字プログラム(社会福祉法人日本点字図書館へ依頼) ・大文字プログラム(黒地に白文字、白地に黒文字) ・ユニボイスによる音声コード付きプログラム ・手持ち型のレーザー網膜投影視覚支援機器の貸出 ・公演プログラム音声読み上げ動画の設置
舞台上 MC	<p>(1)公演の冒頭(プログラム本編に入る前)に司会者が下記の説明を実施</p> <ul style="list-style-type: none"> ・公演趣旨の説明 ・ステージの幅や奥行きを、司会者が生声で話し手を叩きながらステージ上を歩くなどして、音の響きで感じてもらう。 ・会場の四隅から奏者が楽器で音を出し、会場の広さを体感してもらう。 ・照明を完全暗転の状態まで消すデモンストレーションを行い、事前に暗闇の状態を体験し、気持ちの準備をしてもらう。 <p>(2)公演の MC のなかで、司会者あるいは晴眼の演奏者が視覚に障がいのある演奏者へインタビューをして、当事者の声を観客に伝える。</p>

3、鑑賞ガイド(ワークショップ)

公演当日の開演前(開演 1 時間前より 25 分間)に、視覚に障がいのあるお客様を対象にコンサートをより楽しんでもらうためのガイドを実施。内容は、演奏曲の説明や、舞台上に登場する楽器に実際に触れてもらう楽器体験など。

■実績

- ・演奏曲の説明と実演
- ・楽器についての説明(形状や素材、弾き方など)
- ・楽器体験(実際に楽器に触って大きさを感じる、講師である奏者サポートのもと音を出す。)
- ・衣装に触れる(和装の場合)

※弦楽器手配は、株式会社ヤマハミュージックジャパンに依頼。

※尺八はプラスチック製を関係者より手配。箏は関係者より借用。

4、広報

(1)チラシ等のツールの配布方法

- ・配布協力先のリサーチ
- ・民間支援団体等への相談、リストアップ
神奈川ライトセンター、横浜ラポール、上大岡ラポール、社会福祉法人日本点字図書館等の協力により
チラシ配架やメールマガジンでの公演情報配信を依頼。
- ・行政、特別支援学校、個別支援級などへの相談、リストアップ。
- ・視覚障がい者のコミュニティやサークルとの連携。
- ・「点字毎日」等、当事者の閲覧媒体へ情報提供。

(2)ウェブサイトや SNS での発信

テキストで発信される、ウェブサイトの充実や SNS でのこまめな情報配信。

各回概要

平成 29(2017)年度：2018 年 3 月実施

日時：2018 年 3 月 17 日(土) 15:00 開演(14:15 開場)
開場：横浜みなとみらいホール 小ホール

料金：全席指定 4,000 円
Miraist Club 会員 3,500 円
学生・65 歳以上の方・障害者手帳をお持ちの方：3,500 円

出演：川島成道(ヴァイオリン)、古川展生(チェロ)

特別編成合奏団(コンサートマスター：三浦章宏)

ヴァイオリン：荒木唯子、磯 絵里子、宇根京子、小寺麻由、松尾牧子、
松田麻実、矢部咲紀子、横島礼理、横溝耕一

ヴィオラ：安藤裕子、田辺藤祐、千原正裕

チェロ：渡邊辰紀、新井幸子、成田七海

コントラバス：高橋洋太

チェンバロ：諸田由里子



曲目：E.イザイ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第2番 イ短調 Op.27-2

J.S.バッハ：無伴奏チェロ組曲 第1番 ト長調 BWV.1007 より
プレリュード、サラバンド、メヌエット

M.サマー：ジュリー・オー

N.パガニーニ：『うつろな心(ネル・コル・ピウ)』の主題による序奏と変奏曲 ト長調 Op.38 MS.44

黛敏郎：BUNRAKU

J.ハルヴォルセン：パッサカリア

A.ピアソラ：アディオス・ノニーノ

A.ヴィヴァルディ：ヴァイオリンとチェロのための協奏曲 変ロ長調 RV547

W.A.モーツァルト：アイネ・クライネ・ナハトムジークより 第1楽章アレグロ

A.ピアソラ：ブエノスアイレスの四季より 春

入場者数：406 名

主催：横浜みなとみらいホール(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

共催：横浜アーツフェスティバル実行委員会

東京藝術大学 COI 拠点「インクルーシブアーツ研究」グループ

構成：新井鷗子

制作：株式会社 1002

【鑑賞サポート】

点字プログラム

大文字プログラム(白背景、黒背景)

【来場者アンケートより】

- ・普段照明がついているときとは違い、照明がないと音が研ぎ澄まされた。音に集中していたからだと思った。大変素晴らしい企画でした。
- ・暗闇の中で聴く音楽が、私自身と演奏者 1 対 1 の世界を感じれた。いい体験でした。
- ・初めて暗闇の中で音を耳にしてとても感動しました。素晴らしかったです。
- ・素晴らしい企画だと思います。闇の中で聴く音楽はより深味があり心に響きました。
- ・とてもよい演奏会でした。試みもとても立派です。もっともっとこういう活動を続けてください。

【演奏者(視覚障がい当事者)より】

- ・「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」では、素晴らしい経験をさせて頂き、ありがとうございました。今回は、無事に終わられて、自信にもつながりました。今後も、ぜひ皆様とご一緒させて頂きたいと思います。(演奏者 A)
- ・今回はピアソラなどの思い切った演目を揃えていただき、とても嬉しく弾かせていただきました。来場した楽譜点訳仲間からは、前回に増して濃い内容だったと好評でございます。これからも皆様といっしょに音作りに参加できるように、様々な経験を積み重ねてまいりたいと思っております。(演奏者 T)



撮影：藤本史昭

平成 31(2019)年度：2019 年 11 月実施

日時：2019 年 11 月 2 日(土) 15:00 開演(14:15 開場)

開場：横浜みなとみらいホール 小ホール

料金：全席指定 4,000 円

Miraist Club 会員 3,500 円

学生・65 歳以上の方・障害者手帳をお持ちの方：3,500 円

出演：徳永二男(ヴァイオリン)、川島成道(ヴァイオリン)

特別編成合奏団(コンサートマスター：三浦章宏)

ヴァイオリン：荒木唯子、磯 絵里子、宇根京子、高井敏弘、小寺麻由、
徳永希和子、松尾牧子、松田麻実、横島礼理

ヴィオラ：須田祥子、田辺藤祐、千原正裕

チェロ：新井幸子、山内俊輔、山本裕康

コントラバス：佐野央子

チェンバロ：諸田由里子



曲目：E.イザイ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第3番 ニ短調 Op.27-3

H.W.エルンスト：シューベルトの《魔王》の主題による大奇想曲 Op.26

W.A.モーツァルト：ディヴェルティメントニ長調 K136 第1楽章

J.S.バッハ：2つのヴァイオリンのための協奏曲 ニ短調 BWV1043

A.ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲集「和声と創意の試み」Op.8 <四季>

入場者数：400名

主催：横浜みなとみらいホール(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

共催：横浜アーツフェスティバル実行委員会

東京藝術大学 COI 拠点「インクルーシブアーツ研究」グループ

構成：新井鷗子

制作：株式会社 1002

【鑑賞サポート】

点字プログラム

大文字プログラム(白背景、黒背景)

【お客様アンケートより】

・暗闇の中、音だけの世界になると、研ぎすまされた感覚になりますね。たまに明るくなるので、その差がよくわかります。

・みなとみらいホールらしい素晴らしい企画で、音楽に集中して聴くことの大切さを感じることが出来ました。音の圧力を感じました。

・今回で 2 回目ですが、暗闇では他に気を取られることなく、音楽だけに集中できるという、他のコンサートでは体験できない素晴らしいコンサートだとおもいます。今後も企画をしていただきたいと思います。

・初めて暗やみ(真暗)の中で音楽を聞いて五感のあらゆる感覚についてあらためて考えてみる事ができた。とぎすまされる感じ。とても新鮮でこのような機会があってよかったです。

【演奏者(視覚障がい当事者)より】

・正に魅力的な公演に出演させていただきましたことに、とても感謝いたします。今回はこれまで以上に効果的な暗転箇所が設けられ、さらに舞台上での緊張感が加わりましたが、客席で聴いていた音楽仲間も感動したと語っております。ホールではおかげさまでソリストの見事な演奏を楽しむこともできる余裕を持てるようになりました。貴重な機会をいただき、誠にありがとうございます。

(演奏者 T)

・聴いている方の集中力も感じられるような気がして、弾くのがだんだん楽しくなるようなコンサートでした。「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」に参加するのは3回目でしたが、ここで得た経験を普段のコンサートの中でも活かしていきたいです。

(「音楽の友」2020年1月号「暗闇で聴くというあらたなコンサート」より、川畠成道氏コメント)

【演奏者より】

・メンバーの全員が素晴らしい演奏家で、みんなが感覚を研ぎ澄まして演奏している感じが伝わってきました。ソロを聴くだけではなく、チェロやコントラバスといった低音をよく聴くことで、全員の呼吸を合わせていました。

(「音楽の友」2020年1月号「暗闇で聴くというあらたなコンサート」より、コンサートマスター三浦章宏氏コメント)



撮影：藤本史昭

令和3(2021)年度：2021年12月実施

日時：2021年12月5日(日)

14:00 開演(13:15 開場)、18:00 開演(17:30 開場)

開場：横浜能楽堂

料金：全席指定 4,000 円

学生・65 歳以上の方 3,500 円

◆障がい者手帳等※をお持ちの方 3,500 円

◆ペア券(障がい者手帳等※をお持ちの方と介助者1名の並び席) 7,000 円
(◆横浜みなとみらいホール仮事務所チケットセンター電話予約のみ取扱い)

※対象の手帳：身体障害者手帳、精神障害者保険福祉手帳、療育手帳

出演：藤原道山(尺八)

風雅竹韻(尺八アンサンブル)：

村澤寶山、田辺恵山、柴香山、長谷川将山 風間禅寿 笠原道樹 庄野文山

澤村祐司(箏)

*特別ゲスト

筑波大学附属視覚特別支援学校高等部音楽科 2 年 / 小汐唯菜(声楽)、町田天音(声楽)

曲目：公演冒頭

演奏開始前に司会者が能舞台について説明。

言葉での説明に加え、手を叩きながら舞台上を歩き、音の響く方向によって能舞台の広さや本舞台と橋懸りなどの形状を伝える。

(*本公演以降、音による空間把握を定例として行う。)

アメイジンググレイス

流祖 中尾都山：鶴の巢籠

尺八合奏による「四季の歌」 朧月夜～椰子の実～紅葉～ペチカ

三宅一徳：渦龍の舞

岸田衿子 詩、木下牧子 作曲：竹とんぼに

岸田衿子 詩、木下牧子 作曲：夢のなかの空

宮城道雄：春の海

宮城道雄：ロンドンの夜の雨

藤原道山：空

三宅一徳：失われた「時」より 第二楽章・第三楽章

入場者数：①14:00 開演：183 名 ②18:00 開演：114 名

※新型コロナウイルス対策で各公演ともに 50%定員で販売。

主催：横浜みなとみらいホール(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

東京藝術大学 COI 拠点「インクルーシブアーツ研究」グループ

共催：横浜アーツフェスティバル実行委員会

協力：筑波大学附属視覚特別支援学校音楽科、横浜能楽堂

制作：株式会社 1002

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) |
独立行政法人日本芸術文化振興会



【鑑賞サポート】

音声コード付きチラシ

点字チラシ(基本情報)

音声コード付きプログラム

点字プログラム

大文字プログラム(白背景、黒背景)

横浜能楽堂能舞台触図、音声ガイド機器(貸出)【機器貸出数:①公演:51名 ②公演:13名】

■視覚に障がいのあるお客様のための「鑑賞ガイド」開催

- ・尺八の説明。楽器としての歴史、形状、様々な音色について。
- ・奏者の指導による演奏体験。プラスチック製の尺八を一人に一つずつ配布し、尺八に触れる、尺八を構える、尺八を吹く所作の体験
- ・羽織袴を展示し、和装に触れ、生地や形状を確認する体験

12月5日(日)13:00~13:25(12:30 受付開始)

会場:横浜能楽堂 第二舞台

参加者:35名(見学者含む)、ほか盲導犬4頭



【お客様アンケートより】

- ・素晴らしい時間をすごせました。ありがとうございました。音の渦に飲まれました。優しい時間でした。
- ・母が昨年からは視覚障がいになり、このコンサートを知りました。コロナ禍になってはじめての外出でした。見える自分が見ない体験をし、さらに感動する音楽に包まれて涙が止まりませんでした。これからもこのような企画をぜひ増やしていただきたいと思います。

- ・尺八や琴のアンサンブルもあまり聴いた経験がなく、さらに暗闇で耳をすますということで、とても新鮮な体験ができました。ありがとうございました。
- ・暗闇の中で聴く音楽はかなり刺激的でした。心で聴く感じ。和楽器と能楽堂の組み合わせも素晴らしく、本当によいコンサートでした。ありがとうございました。

【出演者の声】

・ホールの照明を全て消した暗闇で音だけに集中して聴くという体験は、あまりできないことですよ。視覚による情報が失われたときにどういうことになるのか、演者が見えないときに、客席の方がどう感じるのか、とても興味深かったので、僕自身もいろいろな実験をさせてもらったみたいでしたね

視覚からの情報がなくなることで、今以上に、これまで使っていなかったような感覚を呼び覚ます、その扉を開けるようなものになるのではないかと感じます。

(横浜みなとみらいホール「コンサートカレンダー2025 年度冬号」掲載 藤原道山氏インタビューより)



撮影：堀田力丸

令和4(2022)年度：2022年11月実施

日時：2022年11月1日(火) 15:00開演(14:15開場)

開場：横浜みなとみらいホール 小ホール

料金：全席指定 4,000円

学生・65歳以上の方 3,500円

◆障がい者手帳等※をお持ちの方 3,500円

◆ペア券(障がい者手帳等※をお持ちの方と介助者1名の並び席) 7,000円

(◆横浜みなとみらいホールチケットセンター電話・窓口のみ取扱い)

※対象の手帳：身体障害者手帳、精神障害者保険福祉手帳、療育手帳

出演：和波孝ネ喜(ヴァイオリン)、川畠成道(ヴァイオリン)

成田達輝(ヴァイオリン)、渡辺玲子(ヴァイオリン)

※小林美樹の体調不良により変更

特別編成合奏団(コンサートマスター：三浦章宏)

ヴァイオリン：荒木唯子、磯 絵里子、白井麻実、宇根京子、

小寺麻由、高井敏弘、徳永希和子、松尾牧子、横島礼理

ヴィオラ：須田祥子、田辺藤祐、三浦克之

チェロ：新井幸子、高橋純子、山内俊輔

コントラバス：高橋洋太

チェンバロ：小森谷裕子

曲目：公演冒頭

プログラム本編開始前に司会者が、ホールの舞台の広さと形状について、生の声と音の手を叩く音で説明。客席の四隅にはヴァイオリン奏者が立ち、順番に楽器で音を出して会場の広さを響きで伝える。

J.S.バッハ：無伴奏ヴァイオリン・パルティータ第2番 ニ短調 BWV 1004 より 第5曲「シャコンヌ」

J.S.バッハ：2つのヴァイオリンのための協奏曲 ニ短調 BWV1043

A.ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲集《和声と創意の試み》Op.8「四季」

入場者数：381名

・障がい者手帳等をお持ちの方及びペア券での入場者 48名

・盲導犬4頭

主催：横浜みなとみらいホール(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

共催：横浜アーツフェスティバル実行委員会

後援：東京藝術大学

制作：株式会社1002

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業) |

独立行政法人日本芸術文化振興会

【鑑賞サポート】

音声コード付きチラシ、点字チラシ(基本情報)

音声コード入りプログラム、点字プログラム

大文字プログラム(白背景、黒背景)



■視覚に障がいのあるお客様のための「鑑賞ガイド」開催

弦楽器奏者が、楽器について説明。楽器にふれる体験・演奏体験の実施。短い曲の演奏。

11月1日(火)14:00～14:25(13:30 受付開始)

会場:横浜みなとみらいホール レセプションルーム

参加者:32名(うち視覚に障がいのある方16名/ほか8名見学者・取材/ほか盲導犬1)



撮影：藤本史昭

【お客様アンケートより】

- ・真っ暗闇の中で聴く音楽は、とても新鮮で、演奏は明るい時よりも暗い時の方が、音の広がりが心地よく感じました。開始前の舞台や会場の広さの説明など工夫されていて、好感を持ちました。
- ・暗闇で目を開けること、目を瞑ること、二通りで聞きました。目を瞑りながら聞くと、音楽が体を取り巻き、より体の深部に届くように感じました。
- ・ミュージックインザダークは、初めてまいりました。どれくらい暗くなるのか心配でしたので、最初に司会の方の説明があり安心して音楽を楽しむことができました。音に集中して聴くことができ、演奏家の息遣いなども聞こえて臨場感がありました。

【関係者より】

「共生社会と障がい者への理解啓発」というテーマについては、トーク部分などでこのテーマを盛り込んだ話題に自然に流れていくようなかたちができれば、より良いと思います。たとえば、和波さんであればヴァイオリニストとしてオーケストラと共演された際のエピソードや、忘れられない演奏などをお聞きし、そのうえで「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」に期待されることや、視覚障がい当事者としてのメッセージなど、自由に語っていただくという形もあるかと思います。

そういった中で、相互理解が、私たち聴衆にも伝わっていく流れになればいいですね。改めて、共生社会のPRにも時代に合わせたフレーズがあり、この分野も進化していくのだと再認識しました。

(視覚障がい当事者アドバイザーA)



撮影：藤本史昭

令和5(2023)年度：2024年3月実施

日時：2024年3月20日(水・祝) 15:00開演(14:15開場)

開場：横浜みなとみらいホール 小ホール

料金：全席指定 4,000円

学生・65歳以上の方 3,500円

◆障がい者手帳等※をお持ちの方 3,500円

◆ペア券(障がい者手帳等※をお持ちの方と介助者1名の並び席) 7,000円

(◆横浜みなとみらいホールチケットセンター電話・窓口のみ取扱い)

※対象の手帳：身体障害者手帳、精神障害者保険福祉手帳、療育手帳

出演：川島成道(ヴァイオリン)、岡本誠司(ヴァイオリン)、南 紫音(ヴァイオリン)

特別編成合奏団(コンサートマスター：三浦章宏)

ヴァイオリン：荒木唯子、磯 絵里子、臼井麻実、北川千紗、小寺麻由、
高井敏弘、徳永希和子、松尾牧子、横島礼理

ヴィオラ：田辺藤祐、三浦克之、柳瀬省太

チェロ：新井幸子、大宮理人、富岡廉太郎

コントラバス：本間達朗

チェンバロ：諸田由里子



曲目：公演冒頭

プログラム本編開始前に司会者が、ホールの舞台の広さと形状について、生の声と手を叩く音の響きで説明。客席の四隅にはヴァイオリン奏者が立ち、順番に楽器で音を出して会場の広さを響きで伝える。

J.S.バッハ：2つのヴァイオリンのための協奏曲 ニ短調 BWV1043

E.イザイ：無伴奏ヴァイオリン・ソナタ 第6番 ホ長調 Op.27-6

J.S.バッハ：無伴奏ヴァイオリン・パルティータ 第2番 ニ短調 BWV1004 より 第5曲《シャコンヌ》

A.ヴィヴァルディ：ヴァイオリン協奏曲集《和声と創意の試み》Op.8「四季」

入場者数：396名

・障がい者手帳等をお持ちの方及びペア券での入場者 38名

・盲導犬2頭

主催：横浜みなとみらいホール(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

協力：公益財団法人堺市文化振興財団

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等活性化・ネットワーク強化事業(地域の中核 劇場・音楽堂等活性化)) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

【鑑賞サポート】

音声コード付きチラシ

点字チラシ(基本情報)

音声コード入りプログラム

点字プログラム

大文字プログラム(白背景、黒背景)

■視覚に障がいのあるお客様のための「鑑賞ガイド」開催
弦楽器奏者が、楽器について説明。楽器にふれる体験・演奏体験の実施。短い曲の演奏。

3月20日(水・祝)14:00～14:25(13:30 受付開始)

会場：横浜みなとみらいホール レセプションルーム

参加者：19名(うち視覚に障がいのある方8名／同伴者6名、見学者5名／ほか盲導犬2)



撮影：藤本史昭

【お客様アンケートより】

・以前、暗闇体験をしたことがあり、他の感覚が非常に研ぎ澄まされる感動体験でした。それを音楽でできるなんて！！とこの企画を知ってから大変興味を持ち、楽しみにしていました。思った以上に暗闇での聴こえ方は全く変わり、耳が開く感覚、繊細なニュアンス、音の立体感、余韻の残り方、残響、すべてが見えていたときとがらりと変わることを体感して驚きました。

・真っ暗な空間の中で普段と変わらず演奏されて、プロはさすがにすごいと感動し、素晴らしい演奏でした。暗闇で聴くことによって耳の感覚が研ぎ澄まされ、メインの楽器以外の音がよく聞こえました。また音(音楽)が自分に迫ってくるような感覚がありました。

【演奏者(視覚障がい当事者)より】

・演奏やそれ以外でもサポートいただけるので不安はないのですが、待ち時間に皆さんとお話しながら視覚障がいについて知っていただく機会があるとよいなと感じました。隣に視覚障がい者が普通にいるということがオーケストラだけでなく、どこでもそうなるといいなと思っております。とにもかくにも緊張はしたものの楽しく演奏させていただき、またソリスト、オケの皆さんのすばらしい演奏に感動した夢のような1日でした。

(演奏者 M)

・今回も格別なるご配慮をたまわり、練習時から何らの支障もなく参加させていただきました。また、出演される演奏家の方々も開催趣旨をしっかりとご理解されておられますので、演奏意欲が高まります。

(演奏者 T)



撮影：藤本史昭

令和7(2025)年度：2026年2月実施 *開催予定

日時：2026年2月7日(土) 15:00 開演(14:15 開場)

開場：横浜みなとみらいホール 小ホール

料金：全席指定 4,000円

学生・65歳以上の方 3,500円

高校生以下 3,000円

◆障がい者手帳等※をお持ちの方 3,500円

◆ペア券(障がい者手帳等※をお持ちの方と介助者1名の並び席) 7,000円

(◆横浜みなとみらいホールチケットセンター電話・窓口のみ取扱い)

※対象の手帳：身体障害者手帳、精神障害者保険福祉手帳、療育手帳

出演：藤原道山(尺八)

澤村祐司(箏)

神田佳子(パーカッション)

風雅竹韻(尺八アンサンブル)：柴 香山、田辺恵山、風間禅寿、村澤寶山

小汐唯菜(ソプラノ)

曲目：公演冒頭

プログラム本編開始前に司会者が、ホールの舞台の広さと形状について、生の声と手を叩く音の響きで説明。客席の四隅には竹製の民族楽器アングルンを持った学生(東京藝術大学学生)が立ち、順番に楽器で音を出して会場の広さを響きで伝える。

アメイジンググレイス

宮城道雄：春の海

宮城道雄：ロンドンの夜の雨

流祖 中尾都山：鶴の巣籠

三宅一徳：渦龍の舞

小林愛雄 作詞、宮城道雄作曲：紅薔薇

神田佳子：尺八はミラクル

藤原道山作曲、冷水乃栄流編曲：東風

山田耕筰作曲、加藤昌則編曲：山田耕筰メドレー

からたちの花～この道～待ちぼうけ～あわて床屋～ペチカ

主催：横浜みなとみらいホール(公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団)

協力：東京藝術大学、横浜能楽堂

助成：文化庁文化芸術振興費補助金(劇場・音楽堂等機能強化推進事業[地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業]) | 独立行政法人日本芸術文化振興会

神奈川県マグカル展開促進補助金

【鑑賞サポート】

音声コード付きチラシ

点字チラシ(基本情報)

音声コード入りプログラム

点字プログラム



大文字プログラム(白背景、黒背景)

レーザー網膜投影機器

公演プログラムの音声読み上げ動画(当日ロビーに設置)

■視覚に障がいのあるお客様のための「鑑賞ガイド 宮城道雄と海」開催

- ・尺八の説明、箏の説明。
- ・宮城道雄「春の海」抜粋演奏と曲解説。
- ・打楽器の演奏体験、ならびに「海の音」を共に奏でるワークショップを実施。

2月7日(土)14:00～14:25(13:30 受付開始)

会場:横浜みなとみらいホール レセプションルーム

*東京藝術大学 演奏芸術センター授業「障がいとアーツ研究」受講生制作・運営

各回担当者所感

横浜みなとみらいホールで初めて開催した「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」公演であったが、チケットは事前に完売となり、本公演のお客様の関心の高さを感じた。公演の制作やりハーサル・本番は、株式会社1002への委託によりスムーズであった。

ホール内の照明設備(天井灯・足元灯・舞台明かり・非常誘導灯)すべてを消す場面があるため、事前に消防署への説明にも出向き、実施をした。鑑賞サポートに関しての経験も本公演を機に学び、今後活かしていければと思う。

平成 29(2017)年度担当 堀 利文

川島成道さんのほか、徳永二男さんをソリストに迎えての実施。暗闇の中で全身の感覚を研ぎ澄ませて聴くことで、普段とは違う感覚となるというお客様のお声が多く寄せられた(アンケートにて)。

本公演での試みがお客様に伝わり、共生社会について考えるきっかけとなればと思う。前回の「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」チラシは、暗闇から音が浮き上がってくるようなイメージでのデザインで、どちらかというとき晴眼者を意識したデザインであったが、今回はタイトルまわりを少しすっきりさせて、より情報が見やすいように努めた。鑑賞サポートに関しても、次回に向けてブラッシュアップしていければと思う。

平成 31(2019)年度担当 堀 利文

「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」では初めての邦楽公演での実施。新型コロナウイルス対策で各公演ともに50%定員での開催となり、当初は1回公演のみの予定であったが、2回目公演を急遽追加しての実施となった。横浜能楽堂での開催となったが、裏周り・表周りともスムーズであった。出演者のご協力も大きかったように思う(邦楽家ならではの演奏・共演者に対する姿勢など)。

チケット販売方法として、ホール休館中ということもあり、障がい者手帳をお持ちの方・ペア券を購入希望の方は平日の電話のみの対応となってしまったので、WEBからも購入できるよう検討してもよかった。障がいの方用(出やすい席や通路側)の席を取りおいていたことは良かった。

また、今回より、視覚障がいの方への「鑑賞ガイド」の実施や「鑑賞サポート」の追加(音声コード付きチラシ、点字チラシ、音声コード付きプログラム、舞台触図、音声ガイドなど)をするなど、視覚障がいの方へのサポートを色々取り組めたのは良かった。色々用意した中から、希望のものを選んでもらえることが大切と思う。鑑賞ガイドは、演奏家とともにつくっていったことが良かった。そして楽器(尺八)を触ってもらえたことも良かった。鑑賞サポート等は、視覚障がい当事者のアドバイザー浅香ちぐささんにアドバイスいただき、今後もブラッシュアップしていければと思う。

令和3(2021)年度担当 末廣思帆

横浜みなとみらいホールリニューアルオープン後、小ホールにて実施した公演であり、今年度より、東京藝術大学 COI 拠点との共催ではなく実施。東京藝術大学とともに制作した経験をもとに制作を進めた。鑑賞ガイドは弦楽器バージョンの内容にて実施。演奏者が講師となり、「形状」「素材」「弾き方」などを実際に楽器に触っていただきながら説明し、弦楽五重奏の演奏をお聴きいただき、非常に好評であった。また、今年度は、鑑賞ガイドでのお客様案内や鑑賞サポートの配布受付に東京藝術大学の学生さんにボランティアで入っていただいた。

令和 4(2022)年度担当 末廣思帆

横浜みなとみらいホール 25 周年音楽祭のプログラムとして実施。音楽祭期間中の多忙な時期での開催であったが、丁寧な制作を心がけた。

今年度より、制作スタッフ・お客様をご案内するスタッフ(レセプションистやボランティア)が開場前に、視覚障がい者アテンド研修を受けたうえで、現場に臨むようにした。そして、鑑賞ガイドやお客様案内のスタッフとして、横浜みなとみらい 21 ロータリークラブメンバーに参加いただく取組みを行った。

横浜公演のほか、大阪府堺市のフェニーチェ堺での開催もあり、堺公演では鑑賞サポートの取組みのひとつとして、ロビーにてプログラムの読み上げモニターを設置していた。今後の横浜公演にも取り入れられたらと感じた。

鑑賞サポートについては日々必要とされているものが変わっていくこともあるので、情報を得ながらブラッシュアップしていければと思う。

令和 5(2023)年度担当 白川美帆

担当者振り返り

東京藝術大学が開発した「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」の取組みは、横浜公演ではほぼ満員の企画として定着して参りました。鑑賞する皆さまにとって、暗闇は特別な体験で、目をつぶるとは異なる、聴覚を研ぎ澄ます感動体験となり、それが横浜での「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」ファンが確実に育つ原動力になっています。それは、クラシカルな内容でも、邦楽器の内容でも、お客様が集まっていることで証明されているように思います。

暗闇という同じ環境下での演奏は、演奏者にも新鮮な演奏体験となっています。お客様の異次元体験的な感動を呼び起こすためには、演奏のクオリティの高さが最も重要な要素です。そのために、日本を代表する奏者に暗譜を前提にお声がけし、本番前日に演奏会場自体を利用して、暗闇体験も含めてリハーサルをすることで、本番に暗闇の中、演奏者に自信をもって音楽表現に全力を注げる環境を作ることが重要と毎回感じます。

東京で生まれ、横浜で育った「ミュージック・イン・ザ・ダーク®」の取組みは、日本各地にも波及しつつあります。2024 年の初関西となるフェニーチェ堺に続き、2026 年にはハーモニーホールふくいにて開催を予定しています。表方スタッフの育成など、通常とは異なる準備が必要となりますが、誰もが訪れやすい文化施設の実現への一歩として、良いきっかけであり、一般公演での障がい者へのおもてなしに強く波及します。当館も、さらに高い次元のおもてなしに向けて改善をすすめていきます。

横浜みなとみらいホール 事業企画グループ
チーフプロデューサー 菊地健一